

平成25年度

大阪市立大学大学院法学研究科法曹養成専攻入学者選抜試験

【2年短縮型】

法律科目試験問題：民法（配点：100点）

注意事項

- 1 問題冊子は、監督者が「解答始め」の指示をするまで開かないこと。
- 2 問題冊子は、全部で3ページである。
解答用紙は、全部で8ページである。
問題冊子、解答用紙に脱落のあった場合には申し出ること。
- 3 解答用紙の上部所定欄に、1ページには氏名、受験番号、試験の科目名を、2ページ以降は各ページに氏名を忘れずに記入すること。
- 4 解答は、第1問は1ページから、第2問は5ページから記入すること。
- 5 解答以外のことを書いたときは無効とすることがある。
- 6 机上に各自の「受験票」と「法科大学院全国統一適性試験受験票」を出しておくこと。
- 7 解答用紙は、8ページを超えて使用することはできない。

第1問

次の問いにつき、所有権の所在または変動を明らかにしつつ、答えなさい。

問1 Aは不動産甲を所有している。Aが死亡し、B及びCがそれぞれ2分の1の割合で甲を相続した。

その後、BとCは遺産分割協議をし、甲はそのすべてをBが取得することとした。ところが、その後Cが勝手に甲を単独相続した旨の登記をした上、甲をDに譲渡した。BはDに対し、甲に関して何らかの請求をすることができるか。

問2 AはBの強迫により、不動産甲をBに贈与し、所有権移転登記を済ませた。

その後BはCに甲を売却し、所有権移転登記を済ませた。次の場合、AとCの法律関係について説明しなさい。

- (1) Cへの売却前に、AがBへの贈与を取り消した場合。
- (2) Cへの売却後に、AがBへの贈与を取り消した場合。

(配点：50点)

(民法)

第2問

Aは個人で時計店(法人格はないものとする。)を経営しており、店の經理のためにBを雇用している。また、2011年4月から、Aは、接客を中心とする業務の補助のため、Cをパートタイム勤務の形で継続的に雇用している。

Aは、店の經理用の口座とは区別して、個人の財産として100万円余が入金されているD銀行E支店の普通預金口座(以下ではこれを「口座甲」という。)を有しており、口座甲の預金通帳とこの預金の払戻しに用いるための印鑑を、ダイヤル錠付きの小型金庫に入れていた。この金庫は主として、時計店の業務に用いる印章と証書類を保管するためのものであり、時計店の営業時間中はAが解錠のうえ時計店店頭の仕事机の上に置き、閉店後にAが施錠して店の奥の大型金庫にしまうのが常であった。

2012年4月上旬、Aが取引先Fを訪問したところ、3月末日を弁済期日とするAのFに対する金銭債務のうち、10万円が未払いであることをFに指摘され、Aはその場で時計店に電話をし、直ちにFの口座に10万円を振り込むよう指示をした。その時、經理担当のBが不在であったため、Cが電話を受け、振込に用いるべき現金や通帳がどれであるかわからないと回答したので、Aは、店頭の小型金庫内にある口座甲の通帳と印鑑を用いて、口座甲から10万円の払戻しを受け、さしあたりその現金をFの口座に振り込んでおくように指示をした。Cは、Aの指示どおりにこれを行った。

2012年9月上旬、Cは、消費者金融に対して負っていた債務につき厳しく支払の督促を受けていた。Cは、同年10月10日の勤務時間中に、Aに無断で、時計店の小型金庫(いつものように、Aが解錠し仕事机上に置いていた。)から口座甲の通帳および印鑑を持ち出し、D銀行E支店に赴いて、これらを用いて口座甲の預金残高総額にあたる100万円の払戻しを受けた。その際、E支店の担当者Gは、Cに対し、「預金者ご本人ですね」と声をかけ、Cは「はい」と答えていたが、預金払戻依頼書にCが記載したAの氏名には漢字の間違いがあり(Aの名の一部である「丘」が「岡」と誤記されていた。)、Gはこれに気づかずに、印影が届出印の印影と同一であることをのみを確認して、払戻しに応じていた。

Cはその後、D銀行から払い戻された100万円を持ち去ったまま、行方不明となっている。

以上の事例について、以下の各問いに答えなさい。なお、解答においては、利息および遅延損害金は考慮しなくてよいものとする。

問1 AはD銀行に対し、D銀行からCに対する払戻し(弁済)が無効であることを前提に、口座甲の預金の払戻しとして100万円の支払を求めたが、D銀行は、Cへの弁済は有効であり口座甲の預金残高は0(ゼロ)円であると主張して支払を拒否した。Aは、口座甲の預金の払戻しとして100万円の支払を求め、D銀行を訴えた。この請求は認められるか否かを検討しなさい。

問2 仮に、問1のAの請求が認められて、D銀行はAに100万円を支払ったが、D銀行は、この支払による100万円の損失につきAに損害賠償責任があると考えて、Aを訴えたとする。このD銀行の請求は認められるか否かを検討しなさい。

問3 問2の解答において、D銀行の請求が認められると解答した場合には下記の①に、また、認められないと解答した場合には下記の②に答えなさい(①②のうちいずれか一方のみに答えること)。

① 「問2のD銀行の訴えが認められるならば、問1のAの訴えが認められるとされたことが実質的に意味を失うのではないか」との疑問に対しては、どのように答えるかを述べなさい。

② 「Aの通帳・印鑑の管理のしかたには問題があったと考えられるにもかかわらず、問2のD銀行の訴えがまったく認められないならば、Aは責任または損失を何ら負担しない結果になるが、それは妥当であるか」との疑問に対しては、どのように答えるかを述べなさい。

(配点：50点)